

〔タイトル〕

宮崎大学の卒後臨床研修プログラムにおける「地域保健・医療」研修の現状

Title: Current situation of “community health and medicine” training in post-graduate clinical training program of Miyazaki University

〔発表者・所属〕

小松 弘幸、岡山 昭彦

宮崎大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〔抄録〕

【目的】本院の卒後臨床研修プログラムは、必修科目として 2 年次研修医に対し 1 ヶ月間の「地域保健・医療」研修を提供している。今回、われわれは、本院が提供する「地域保健・医療」研修の実施状況について、アンケート調査の結果も踏まえながら検討した。

【方法】対象となる研修医は、2004 から 2007 年度に本院プログラムで研修を開始し、研修を修了または 2 年次研修先が確定した 111 名。「地域保健・医療」研修施設は 9 つで、領域別に保健所 (2)、赤十字社血液センター (1)、こども療育センター (1)、中小病院/診療所 (3)、個人開業医院 (2) と分類した。研修先の選択は 1 年次の 12 月に行い、全員が第一希望の研修先で研修修了または予定とした。また、第 3 期生 23 名に対して研修内容についての無記名アンケート調査を行い、12 名 (回収率 52%) から回答を得た。

【結果】第 1 ~ 4 期生の研修先選択割合の推移を年度間で比較すると、第 1 期生は保健所が 47% と最多で中小病院・診療所が 17% に留まったが、第 4 期生では保健所が 23% まで経年的に減少し、中小病院・診療所が最多の 46% まで経年的に増加していた。アンケート調査では、研修期間中に経験できた項目として予防医学との回答が最も多く、ほぼ全員が 1 ヶ月の研修期間は適当であるとした。地域保健医療の学習時期について、回答者の約 4 割が「地域保健」は卒前研修のみでも構わないとし、一方、「地域医療」は全員が卒後研修での学習が望ましいと回答した。また、「地域医療」を学ぶ施設として中小病院・診療所が適しているとの回答が最も多かった。

【結論】本院研修医の「地域保健・医療」研修に対する意識が、「地域医療」、特に中小病院・診療所へ向けられるようになってきており、今後、研修医の受け入れが可能な地域医療研修施設の拡充が必要である。